



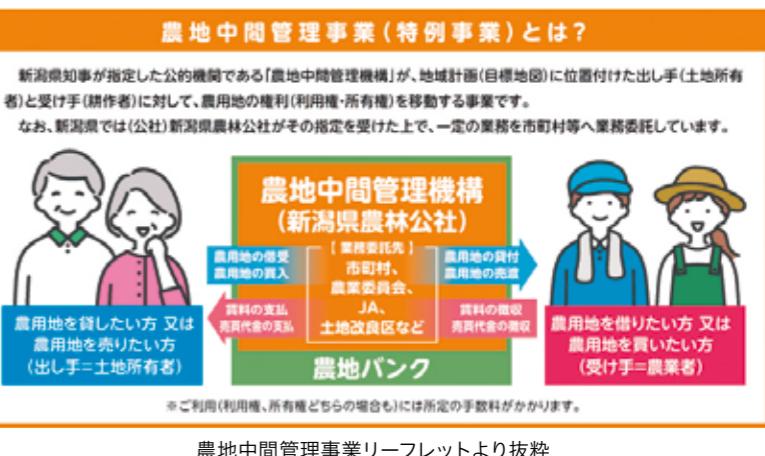
藤家貴之議員の質問

地域農業経営基盤強化促進計画について

Q 実態と計画のずれをどう検証していくのか。
A 地域計画は策定後も継続的に見直すものとし、関係団体と連携しながら実効性の向上を図る。

農地中間管理事業について

Q 農林課と農業委員会の役割が分かれにくいとの指摘への対応は。
A 契約内容が決まっている場合は農林課、新たな借り手探し等は農業委員会が対応。今後も丁寧な窓口対応と周知に努める。



人員体制も含め検討していく。

開通記念事業や開通日の公表について

A 国、県と協議しながら進める。開通時期の具體化について引き続き働き掛けていく。

鳥獣被害の実態と対策について

Q 全国で熊の出没が相次ぎ、人身被害も過去最悪だ。三条市における85件を上回る過去最高だ。これまで、熊は箱わななどで駆除、猿には防護網やモンキードックなどの対策をしてきた。効果はどうだったのか、また、今後の対策はどうか。

A 電気柵は、猿やイノシシの侵入対策に効果がある。イノシシに対する現時点では熊出没などの対応が最もくりわなは捕獲頭数が伸びており、地域の追い払い活動、緩衝帯整備、柿等の誘因物の除去等を進めていく。

鳥獣対策による被害軽減のため、継続的な職員配置が必要ではないか。

A 現時点では熊出没などの対応が最も優先。いったん落ち着いたところで検討したい。

下田地域の過疎化について

Q 「年々世帯が減って先が真っ暗」、「あと十数年で何世帯残ることか。



市民球場スコアボードをLED化 多様な情報発信が可能に

Q 図書館等複合施設内の飲食事業者は指定管理者が選定しているとのことだが、公共性や公平性はどうに担保しているのか。

A 行政ではないアイデアや市民目線での取り組みを生かすために指定管理者制度を導入している。飲食事業の出店者は指定管理者が選定しているが、利用対象者や値段設定などの内容については事前に相談があるため、一定の公共性や公平性は担保されていると捉えている。

下田地域の過疎化について

Q 带状疱疹ワクチンの予防接種にかかる費用を増額することについて、接種者数増加の要因をどう捉えているか。

A 近年、PRや患者の声を聞くとともに、想定よりも接種者数が多くなったと捉えている。また、今年度末で終了する接種費用への助成について周知を行う予定であるため、その駆け込み需要もあると考え、補正予算案を提出した。



三条市諸橋轍次博士奨学金条例の一部改正について

Q 海外留学奨学金の年齢要件を満25歳から満30歳に拡充

A 海外留学奨学金の年齢要件を満25歳から満30歳に拡充するとのことだが、制度設計当初、対象者をどのように想定していたのか。

A 初期、4年生大学を卒業し、学位の取得を目指して留学する20代前半から半ばにかけての人を想定していたが、具体的な相談において、社会人の学び直しのための留学といったニーズが強いことから、改正を提案するもの。

精査する。

Q 熊対策に係るスクールバスの臨時運行について、自宅からスクールバスの停留所までの安全対策は考えているのか。

A 保護者や地域の人の協力に加え、学校や教育委員会の職員によるパトロール、熊の忌避剤の活用など、可能な限りの安全確保に努めている。



付託された議案のうち、議第2号および議第10号は賛成多数で、その他は全員異議なく原案の通り決定すべきものとした。



付託された議案のうち、議第33号および議第34号は賛成多数で、その他は全員異議なく原案の通り決定すべきものとした。